

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第288号
平成23年11月1日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

上を向いて歩こう

校長 鈴木 隆志

『上を向いて歩こう／涙がこぼれないように／思い出す春の日／ひとりぼっちの夜』坂本九さんが歌った「上を向いて歩こう」（作詞・永六輔／作曲・中村八大）は、50歳代以上の世代だけでなく、若い人たちにも広く親しまれている歌です。当時、「六八九トリオ」と呼ばれもてはやされた三人が生み出したこの楽曲は、「SUKIYAKI」のタイトルで、アメリカビルボード誌のチャートでも3週連続1位となり、日本国内だけでなく、世界的にも大ヒットをしました。

「上を向いて歩こう」は1961年に世に出ました。この楽曲がヒットしていた頃、私は小学生でした。毎日のようにテレビやラジオから聞こえてきました。レコードもすり切れるくらいに聴きました。歌詞はそらで覚え、坂本九の真似をして口笛も練習しました。吉永小百合さん出演の映画「上を向いて歩こう」も見た記憶があります。坂本九さんは、1985年の日航機墜落事故に巻き込まれ、43歳の命を落としました。私の胸の中で、この楽曲は、何か特別な歌に感じられていました。

この楽曲が生まれてから、今年で50年になります。また、坂本九生誕70年の年でもあります。それを記念してアニバーサリーCDがリリースされたり、映画版「上を向いて歩こう」がDVDとなって発売されたり、音楽プロデューサーの佐藤剛氏による単行本が発行されたり、ジブリ映画「コクリコ坂から」の挿入歌に使われたり、NHKテレビでドキュメンタリー番組が放映されたりと、今年は何かと話題となっています。

3月11日の東日本大震災のあと、被災地を励ます“応援歌”としても、「上を向いて歩こう」が歌われています。テレビCMでも流れていました。たくさんの悲しみや苦しみ、悔しさを乗り越え、明日への一歩を踏み出すため、この楽曲は今も歌われ続けています。

「上を向いて歩こう」の歌にはあまり知られていない4番の歌詞があります。映画版「上を向いて歩こう」のラストシーンで、坂本九、高橋英樹、吉永小百合、浜田光夫らが合唱していました。

『上を向いて歩こう／にじんだ星を数えて／
思い出す冬の日／ひとりぼっちの夜／
幸せは星の上に／幸せは月の上に／
上を向いて歩こう／涙がこぼれないように／
手を繋ぎ歌おう／若い僕らの歌』

まぼろしの「冬の日」の歌詞は、3番までとは雰囲気が変わり、ひとりぼっちだった「僕」が、仲間たちと手をつないで前を向いて歩いていこうという希望に満ちた内容になっています。

『復興の狼煙』ポスタープロジェクトは、東日本大震災のあと、釜石市民、盛岡の広告マン、東京のカメラマンたちが、岩手県を中心に活動をしているものです。被災地の皆さんたちが力強く生きている姿をポスターにしています。そのポスターを見ると、人間が逞しく生き抜いていく力や、みんなで力を合わせ復興に取り組んでいる姿がひしひしと伝わってきます。詳しくは、『復興の狼煙』ホームページを御覧ください。(http://fukkou-noroshi.jp/)

私たち自身の身の回りの放射線被害や食の安全についても大きな心配事ですが、被災地の皆さんの思いは、私たちの想像をはるかに超えるものだと思います。これからも被災地を応援していきましょう。

私たち大人は、未来を生きる光っ子たちに、どのように自分の人生を生きていくのか、未来を逞しく生き抜く力を、きちんと教え伝えていくことが大切です。光っ子たち自身にも、自分の生きていく道をしっかりと自分自身で切り拓いてほしいと願っています。